

実習日誌における表記の誤りに対する指導プログラムの予備的検討 — 自己修正方法の観点から —

Preliminary Study of Guidance Program for Typographical Errors in Diary for Pre-Service Practical Training in Nursery School — Perspectives on Self-correction Methods —

大塚 美奈子 市東 賢二 多田 幸子
OTSUKA Minako SHITO Kenji TADA Yukiko

本研究では、保育士資格の取得をめざす学生45名に対し、実習日誌用練習シートを用いて表記や表現の誤りの自己添削及び他者による添削を継続的に行った結果、実習後の自己評価では学生の約9割が練習シートでの見直しにより誤字・脱字が減り、理解しやすい正確な文章が書けるようになったと回答し、約7割の学生が有効な自己修正方法としてネット検索機能の活用を挙げた。このことから、実習事前指導で継続的に書く練習の機会を設定し、有効な自己修正方法の習得を指導していくことが表記や表現の誤りを減らし、正確な文章を書くことに有効であることが示唆された。

キーワード：実習日誌 誤字脱字 自己修正 文章校正ツール

I. はじめに

保育（施設）・教育実習における実習日誌は、自己の実習内容を省察するために必要不可欠な記録である。実習日誌のみでなく保育士にとって記録は欠かせない業務の1つである（2018，厚生労働省）¹⁾。保育・教育実習日誌の項目である「環境設定」や「幼児の動き」，「保育者の援助・留意点」等の欄は、日々、子どもと遊んだ内容や会話，やり取り，保育者の援助方法等を

記録し、見返すことで子どもとの関わり方や援助の方法等についての考察が進み、次の目標やめあてが見えてくる。施設における実習日誌に多く使用されているエピソード記録についても、生活場面を捉え利用者の動きと支援者の関わり方に着目して観察・記録することで、個々の利用者に添った支援者側の意図や利用者が生活しやすい環境の設定等を考察することへつながる。

しかし、実際の実習現地指導では、「実習日誌の誤字や脱字、文章表記の誤りの添削に時間がかかる」との指摘がある。実習生の約9割が日誌を書くことの大変さを語っているとの報告もある（吉江，2020）²⁾。実習生が書いた日誌の中には、権藤（2007）³⁾が指摘しているように実習日誌の内容が事実の羅列や感想に留まっている日誌が多く見られる。実習指導者側からは、「本来、実習生の子どもへの関わり方や援助の方法・教材の選定の仕方など考察に関わる内容に言及して日誌の指導をしていきたいが、誤字・脱字や表記の誤りが多く、読み直しや添削に時間がかかり内容に係る時間が確保しにくい」との指摘もある。学生の側に立てば、誤字・脱字によって指導の幅が狭まることは不利益であり、実習指導の中でできれば誤字・脱字は自己修正し、保育内容に係る日誌の指導を充実させたいと考える。

誤字・脱字が多いことの要因がいくつか考えられる。1つ目は、学習障害（以下LD）の1つである読み書き障害の可能性である。小学校では、通常の学級に学習上気がかりな子どもが6.7%在籍している（文科省，2018）⁴⁾との報告もあり、診断を受けるには至らないが、文字の形が正しく認識できず、読み書きにおける学習上の困難さを抱えている学生は少なからずいると考えられる。2つ目は、不注意である。注意・欠如多動症（以下ADHD）の診断を受けるまでには至らないが、計算のうっかりミスや文字の見間違い、書き間違いなど不注意が要因となった誤りである。3つ目は、誤学習による文字の習得である。例えば、「本を読む習慣が身に付いている」を「本を読む週間が身に付いている」と誤って覚えているような場合である。4つ目は、書いた文字や文を見直ししないため、誤りに気づかないことである。この中で、1と2については医師の診断やLD等通級指導などの専門的な対応が必要と考えられる。しかし、3と4については、授業における実習日誌の指導の範囲で改善できる可能性があると考えられる。

誤学習については、自分で見直しをしても同じ誤りを繰り返す可能性がある。修正をするためには「他人による添削」スマホやタブレット端末を利用した「マイク機能を用いた音声読み上げによる文字への変換」という方法が考えられる。実習中に他人による添削は考えにくいいため、実習前に他人に添削を受けて誤学習を改善しておくことが求められる。「マイク機能を用いた音声読み上げによる文字への変換」は、個人で行うことができるため実習中にも活用できる可能性がある。書いた文字や文を見直す習慣がない要因については、見直し経験の不足や自分にあった見直し方法が分からないことなどが考えられるため、練習の中で繰り返し自分の使いやすい方法を用いた見直しの機会を設けることで習慣化を図ることができると考えられる。また、これまでの学生は誤字・脱字や表記の確認に辞書を使用することが多かったが、現在は電

子辞書やタブレット端末のネット機能による辞書検索が中心となっている。そこで本研究では、保育士資格を取得するために施設実習を行う学生を対象とし、保育実習(施設)事前事後指導の科目の中で、継続的に日誌用練習シートを用いて、誤字・脱字及び文章表現の誤りの自己添削及び他者による交換添削を行い練習シートの表記の見直しを行った。継続的な練習シートの見直しによる誤字・脱字及び表現の誤りの自己修正方法習得への効果について練習シート及び実習後の日誌の自己評価から検討することを目的とした。

Ⅱ 方法

1. 対象

保育士資格を取得する予定の2年次学生45名

2. 実施科目及び場所

上田女子短期大学 講義室 (保育実習Ⅰ(施設)事前事後指導・保育実習Ⅲ事前事後指導)

3. 実施期日

2021年7月13日・20日

4. 質問紙

質問紙は、実習日誌の振り返り4項目(1. 実習日誌の記述について修正を指摘された単語や文の個数, 2. 修正箇所の具体内容(1) ひらがなの漢字・カタカナ変換, (2) 漢字の表記の誤り, (3) 表現の変換)の内1は個数の3択(1:5か所未満 2:5-10か所 3:10か所以上), 2-(1)から(3)は、自由記述で回答を求めた。実習中の日誌の見直し9項目(1. 指導者に提出する前に誤字・脱字を見直した, 2. 実習日誌を書く途中で見直した, 3. 実習日誌を1日分書き終えてから見直した, 4. スマホのマイク機能を使って見直した, 5. ネットの辞書検索機能を使って見直した, 6. 自分で見直しても誤字・脱字に気が付かなかった, 7. 誤字・脱字を指摘された後再度同じ間違えをした, 8. 自分にとって有効な見直し方法, 9. 実習日誌の練習シートの交換添削, 自己添削により誤字・脱字が減り読み手が理解できる正確な文章が書けるようになった)の内1~7と9は「はい」「いいえ」の2択で, 8は自由記述で回答を求めた。

5. 倫理的配慮

本研究の実施は、上田女子短期大学の研究倫理委員会にて承認を得て行われた。対象学生には、授業の中で研究目的、方法、自由意思による参加であること、研究協力を断ったことによる不利益は生じないこと、個人情報の取扱い方について口頭で説明し、書面にて研究への協力に同意を求めた。

6. 実施手順

保育実習(施設)後の「保育実習Ⅰ(施設)事前事後指導・保育実習Ⅲ事前事後指導」の授業に

において、学生が各自記入済みの実習日誌を用意し、実習先の保育指導者による添削箇所を確認し、質問紙に誤字・脱字や表現の変換の誤りを抜き出して記入するようにした。また、誤りの個数を数えて質問紙の項目に回答するようにした。各自、保育実習(施設)前の「保育実習Ⅰ(施設)及び保育実習Ⅲ事前事後指導」で使用した練習シートを用意し、他の学生により添削を受けた誤字・脱字や表現の変換箇所を質問紙に記入するようにした。その後、質問紙を回収し、研究の参加に同意した学生の質問紙のみ対象とし、質問紙には通し番号を付けて管理しデータ化した。

7. 見直しの指導手続き

保育実習(施設)事前事後指導Ⅰ及びⅢ、全15回の授業において以下の手順で日誌の書き方を指導した。

(1) 練習シート

日誌用練習シート(A4)を配布し、学生自身の日常生活の注目する出来事を取り上げ、A4の1/2量のエピソード記録を4回、A4の1ページ量にエピソード記録及び動機・考察の項目の記録を8回書くようにした。自宅課題として記入し自分で見直し(自己修正)を行い持参するようにした。毎回授業の前半で交換添削の時間を取り見直しを行うようにした。

(2) 自己修正方法

保育実習前の事前指導初回講義に練習シートを配布し、誤字・脱字の種類(1. ひらがなを漢字・カタカナへ変換:例 あいさつ→挨拶, 2. 漢字の表記の誤り:例 禅足→裸足, 3. 表現の変換:例 昼ごはん→昼食), 4. 「～させる」使役動詞や「～あげる」可能動詞の不使用等を説明し、自己修正や他者の添削の際にチェックポイントとして注目するよう伝えた。携帯のwordやメモなどに付随するマイク機能を使い、自分の書いた文章を読み上げてテキスト上で文字に変換し、間違いを見つけ修正する方法を紹介し実際に練習を行った。他の学生と練習

シートを交換し互いに表記の誤りを添削し自分では気がつかない誤りを意識するようにした。

(3) 日誌の振り返り

最終講義に実習日誌及び練習シートについて質問紙による振り返りを行った。質問紙に自身の誤字・脱字や表現の誤りについて記録し、その後前述の実施手順に従って回収した。

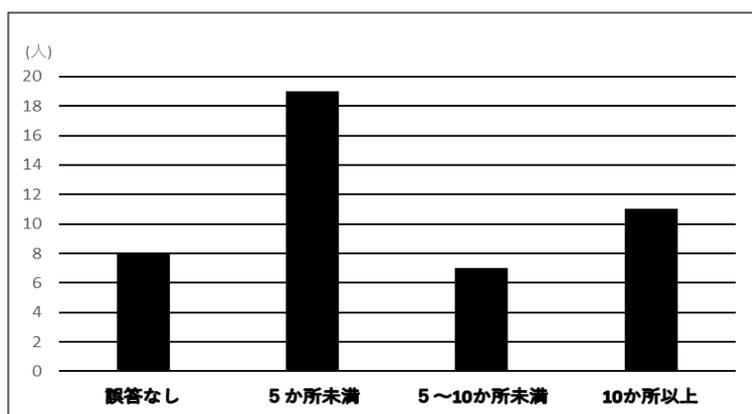


図1 実習指導者から表記の誤りを指摘された箇所数ごとの人数 (n=45)

8. 分析方法

実習日誌の振り返り4項目については、項目ごとに記述内容を整理した。実習日誌の見直し9項目については、2択の割合を示した。練習シートの表記の誤りについては、表記の誤り数と記述内容を誤字・脱字と表現の変換に分類し整理した。

III 結果

1. 実習日誌の表記及び表現の誤り

履修学生50名中45名から回答を得た。回収率は90%であった。図1に実習指導者から誤字・

表1 ひらがなで表記された漢字・カタカナ変換の指摘（一部抜粋）(n=45)

遊びの場面		食事の場面		生活の場面		保育者の援助	
正しい	誤り	正しい	誤り	正しい	誤り	正しい	誤り
筆	ふで	配膳	はいぜん	掃除	そうじ	微笑む	ほほえむ
粘土(3)	ねんど	調節	ちょうせつ	玩具	おもちゃ	頷く	うなづく
お面	おめん	箸(2)	はし	キレイ	きれい	収まる	おさまる
積み木(2)	つみき	歯ブラシ	はぶらし	物	もの	渡す	わたす
玩具(2)	おもちゃ	オレンジジュース	おれんじじゅーす	靴	くつ	掛ける	かける
片付け	かたづけ	身の回り	みのまわり	オムツ(2)	おむつ	挨拶(3)	あいさつ
鉄棒	てつぼう	汚れ	よごれ	畳	たたみ	身に付く	みにつく
乗る	のる	食べる	たべる	布団	ふとん	真似	まね
お芋	おいも	座る	すわる	敷き	しき	嬉しい	うれしい
笛	ふえ			お風呂	おふろ	頼る	たよる
喧嘩	けんか			怪我	けが	挑戦	ちょうせん
登る	のぼる			箒	ほうき	切り替え	きりかえ

表2 表記の誤り（誤字・脱字）の指摘（一部抜粋）(n=45)

遊びの場面		生活の場面		保育に関わる用語			
正しい	誤り	正しい	誤り	正しい	誤り	正しい	誤り
縄跳び	縄飛び	眠る	月る	遊戯室	遊劇室	確認	観認
三輪車	三輪者	寝る	掃る	配膳	配善	年齢	年歳
探検	探険	敷き	激き	園庭	庭園	合図	相図
かくれんぼ	隠れんぼ	挨拶	相埃	不審者	不振者	円陣	円障
活発	勝発	座る	座わる	促す	伺す	間隔	感覚
制作	製作	着替え	替着え	保育者間	保育者関	理解	理触
描く	書く	迎える	向かえる	午睡	午唾	特徴	特徴
壊して	懐して	貸す	借す	伴奏	判奏	習慣	週間
運ぶ	配ぶ	味わう	味う	誕生日会	誕日会	共有	供有
捕まえる	疲まえる	慰める	泣ぐさめる	避難訓練	非難訓練	避ける	寄ける
隊形	体型	眠かった	寝かった	問診表	問診評	測る	計る
お散歩	お静歩	沿う	添う	換気	喚気	探す	深す
新聞紙	親間紙	起きる	起る	言葉掛け	言掛け	お別れ会	お別会

脱字や表現の誤りを指摘された箇所数ごとの人数を示す。最も多かったのは、5か所未満で45人中19人であった。次いで10か所以上が11人であった。表1にひらがなで表記された漢字・カタカナ変換の誤りを示す。実習園での子どもの遊びや遊具・教材等日常生活に係わる単語をひらがなで記入していることが多く見られた。給食の場面では、「配膳」「食べる」「歯ブラシ」等が挙げられ、遊びの場面では、「筆」「粘土」「お面」「玩具」「片付け」「鉄棒」等が挙げられた。表2に実習日誌における表記の誤り(誤字・脱字)を示す。子どもの行動や様子を記入する際に漢字を誤って用いていることが多く見られた。保育現場で使われる専門用語として「午睡→午唾」「避難訓練→非難訓練」「配膳→配善」「遊戯室→遊劇室」「園庭→庭園」「問診表→問診評」等の誤りが見られた。遊びや主活動の場面で用いられる用語として「縄跳び→縄飛び」「探検→探険」「隊形→体型」「三輪車→三輪者」「新聞紙→親聞紙」「製作→制作」「描く→書く」等が見られた。子どもの様子を表す用語として「眠る→眠むる」「機嫌→気嫌」「座る→座わる」「困って→困まって」「活発→勝発」「真剣→真険」「我慢→我満」「急いで→忙いで」等が見られた。漢字を誤って用いている場合と送り仮名を誤って用いている場合が見られた。

表3 表現の変換の指摘(一部抜粋)(n=45)

変更前	変更後	変更前	変更後	変更前	変更後	変更前	変更後	変更前	変更後
教室	保育室	共有し	投げかけ	笑顔	機嫌よく	言う	指示する	イマイチ	よくない
以上児	幼児クラス	するのを	することを	言う	話をする	真似している	真似する	食べかす	食べた欠片
声を掛ける	言葉掛け	食べれて	食べられて	していない	していませんが	行っている	行く	注意する	声を掛ける
別れて	応じて	話をして	声を掛け	探索する	～に行く	切っている	切る	やっぱり	やはり
未満児	未満クラス	促していく	声を掛けていく	楽しい	楽しさ	促す	言葉を掛ける	トントン	寝かしつけ
注意をする	伝える	輪っか	輪つなぎ	親の方々	保護者	叩く	さする	違くて	違って
私	実習生	台ふき	台ふきん	寄っかかる	寄りかかる	対策	対応	延長保育	時間外保育
お昼	昼食	教える	伝える	しゃべり	発音	中	室内	掴む	握る
食べては	口に入れては	おままごと	ままごと	変な	変化のある	指示	伝える	補助	援助
する時は	する時	布団	午睡	ゆらす	こぐ	没収	預かり	リンリン	音

表3に表現の変換の誤りを抜粋して示した。保育専門用語や子どもの行動や様子を表す単語、保育者の動きを表す単語が多く見られた。保育専門用語は、「未満児→未満クラス」「以上児→幼児クラス」「延長保育→時間外保育」「補助→援助」「教室→保育室」等が見られた。子どもの行動や様子を表す表現では、「食べては→口に入れては」「ゆらす→こぐ」「しゃべり→発音」「切っている→切る」「食べかす→食べた欠片」「真似している→真似する」「探索する→～に行く」「食べれて→食べられて」「寄っかかる→寄りかかる」「笑顔→機嫌よく」「イマイチ→よくない」等が見られた。保育者の動きを表す表現では、「トントン→寝かしつけ」「注意をする→伝える」「話をして→声を掛け」「言う→指示する」「共有し→投げかけ」「促していく→声を掛けていく」「没収→預かり」等が見られた。「～させる」といった使役動詞や「～してあげる」といった可能動詞の指摘はほとんど見られなかった。

2. 実習日誌及び練習シートの見直しについて

図2から図9に実習日誌における自己評価を示す。図2 実習日誌を提出する前に表記の見直しをした学生は85%で8割を超える学生が見直しを行っていた。見直しの頻度は、その都度が74%で約7割の学生が行っていた。

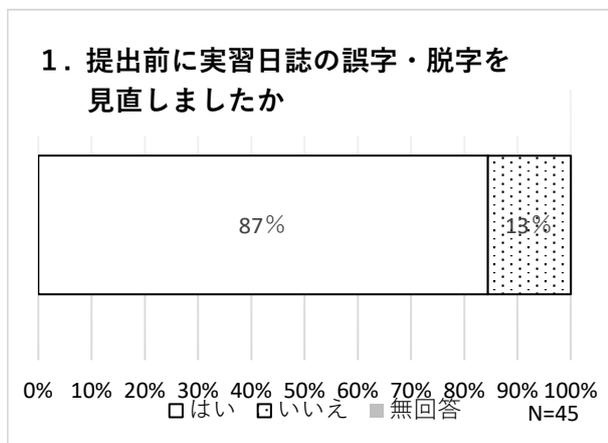


図2 実習日誌における自己評価

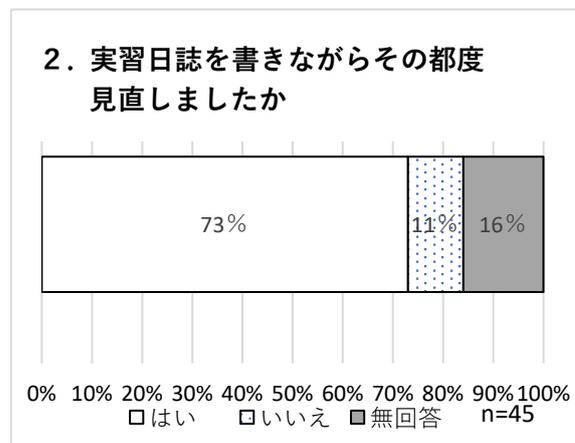


図3 実習日誌における自己評価

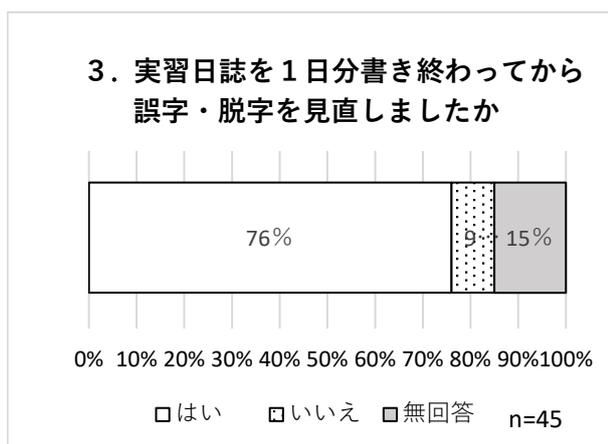


図4 実習日誌における自己評価

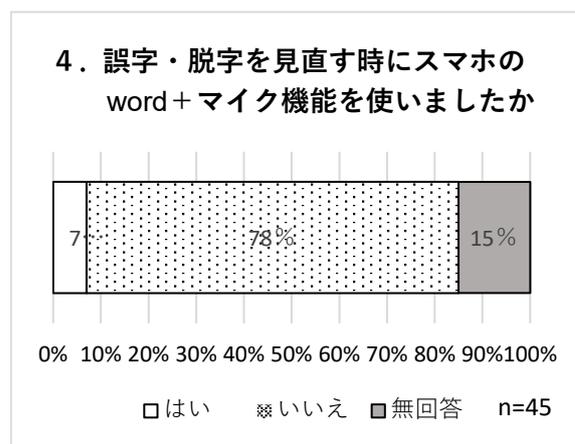


図5 実習日誌における自己評価

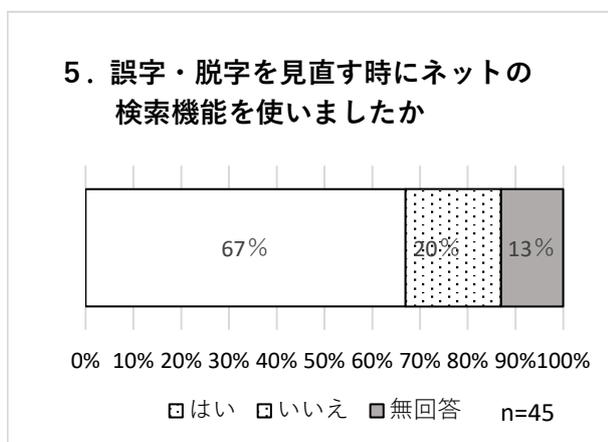


図6 実習日誌における自己評価

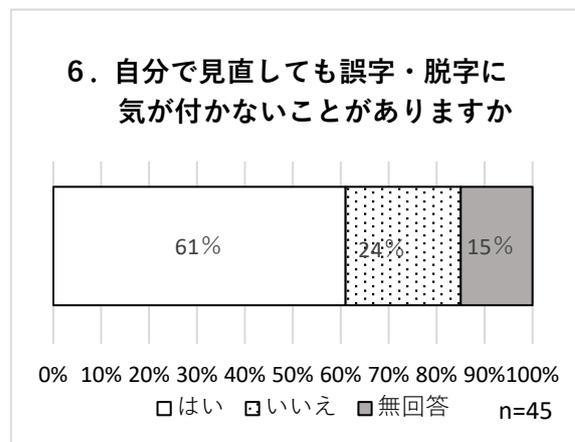


図7 実習日誌における自己評価

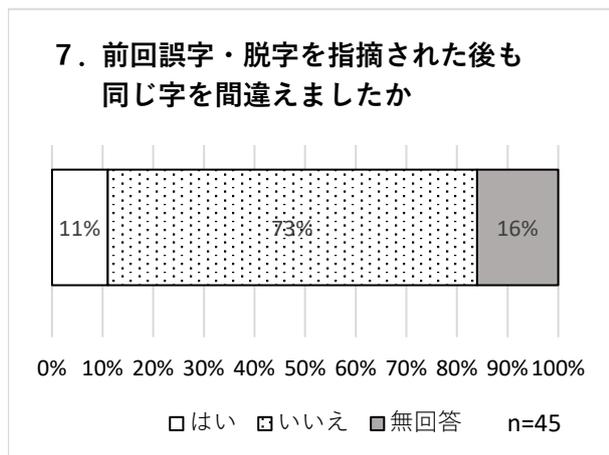


図 8 実習日誌における自己評価

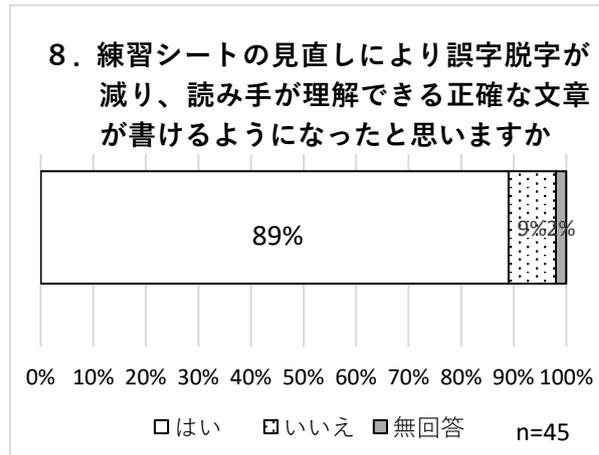


図 9 実習日誌における自己評価

表 4 実習日誌の有効な見直し方 (n=45)

実習日誌の見直し方
書いた文をその都度読み直す
その都度見直す
その都度分からない字があったらすぐに調べて確認する
書いている途中で見直す
書いてすぐ見直す
書いている途中で分からなかったり曖昧だった言葉を調べて確認して書くようにする
1つの項目が終わったら見直していく
1頁書き終わるたびに見直し、最後にもう一度見直す
1日分書き終わったら見直す
日誌を書き終わってしばらくしてからもう一度読む
もう一度全体を読み直す
見直し方法
電子辞書
少しでも疑問に思った文字があったら書く前に電子辞書で調べる
書いたら漢字の部分を中心にチェックして電子辞書で調べる
グーグルで調べるまたは電子辞書
インターネット
ネットの検索機能 (5)
スマホで検索する (4)
スマホのキーボード変換だけでは同じ音の違う漢字が出てくることがあるので検索まで行い意味を調べた上で使うことがよい
自分の目で見て分からない単語はネットで調べる
自信のない漢字や前後の文が合うように文が構成されているか見直す。スマホで行う
分からない漢字はその時に携帯で調べる
分からない、不安と思ったらすぐにスマホ検索する
音声化
声に出して読んでみる。1文書くごとに見直す
音読して見直す
ワードのマイクを使ってみて便利だったため使いたい
口に出して読むことでしっかり頭の中に文が入るので考えやすくなる
添削
自分の書いた日誌を添削してもらい添削した内容をもう一度見直す
他者に確認してもらう

1日分を書き終えた後に見直しをした学生は76%で7割を超えていた。見直し方法については、図5・図6・表4に実際に学生が使って有効だと記述した内容を示した。スマホ+word音声文字変換を利用した学生は3人で1割以下であったが、音声化が便利と考えている学生もいることが示された。ネットの検索機能を使用した学生は67%で約7割であった。図7では自分で見直しても誤字・脱字に気が付かないことがあると61%、約6割の学生が回答していた。図8では前回（練習シートや他の実習日誌）の指摘された後は同じ字を間違えない学生が73%で約7割だった。図9では、練習シートの見直しにより誤字・脱字が減り、正確な文章が書けるようになったと自己評価している学生が89%で約9割であった。表5に練習シートでの他者添削により指摘された内容を示す。ひらがな・カタカナ漢字変換の中には「褒める」「玩具」「喧嘩」「頷き」「掛け」等実習日誌にもよく使われる言葉の変換が指摘されていた。表記では、「遊び」「準備段階」「午後」等の指摘が見られた。表現の誤りでは、「いいのかなあ」「好きじゃない」「ごはん」「おしゃべり」等の『話し言葉』の指摘が見られ、「LINE見た」「バイト終わった」等の助詞が抜けている指摘や「カンペ」等の省略語の指摘が見られた。

表5 練習シートの他者による添削での指摘内容（一部抜粋） n=45

ひらがな・カタカナ漢字変換 表記の誤り(誤字・脱字)		表現の誤り			
誤り	正しい	誤り	正しい		
なにか	→何か	奇麗	→綺麗	言われ	→お願いされ
いびつ	→歪	構義	→講義	いいのかなあ	→いいかと
たとえ	→例え	紛	→粉	ごはん	→昼食
ほめる	→褒める	明日後	→明後日	好きじゃない	→好きではない
かざらない	→飾らない	IA	→AI	ふわふわ	→柔らかい
つながる	→繋がる	午後	→午後	暇もなかった	→暇もなく
おもちゃ	→玩具	現めて	→改めて	びっくりして	→驚いて
ひま	→暇	逆られて	→送られて	やりました	→行いました
けんか	→喧嘩	親聞	→新聞	カンペ	→カンニングペーパー
あきらめて	→諦めて	下降	→下校	LINE見た	→LINEを見た
うなづき	→頷き	遊そび	→遊び	バイト終わった	→バイトが終わった
かけ	→掛け	準備段落	→準備段階	おしゃべり	→お話

IV 考察

1. 文章表記及び表現の誤りの低減と記述力の向上

本研究では、継続的に練習シートにおける誤字・脱字及び表現の誤りを見直すことによる自己修正方法習得への効果について練習シートの記録及び実習後の日誌の自己評価から検討することを目的とした。その結果、約9割の学生が練習シートの見直しにより誤字・脱字が減り読み手が理解できる正確な文章が書けるようになったと回答したことから、日誌を書く練習の中

で表記や表現の誤りの自己修正方法が習得され、実習中の日誌を書く際に活かされたことで多くの学生の自己肯定感が高まったことが示唆された。自己肯定感の要因として記述力の向上が挙げられる。坂本 (2017) ⁵⁾ は、実習日誌記述を考察した結果、実習園から修正を指摘された学生の記述に子どもに対する使役動詞・可能動詞がよく見られる傾向があったと報告しているが、本研究対象の学生には、実習日誌の自己評価で「～させる」といった使役動詞や「～してあげる」といった可能動詞の指摘はほぼ見られなかった。保育現場の指導者は、使役動詞や可能動詞の使用については指摘対象としている。使役動詞や可能動詞がほぼ指摘されなかった要因として、練習シートに取り組む初回の講義で誤字・脱字の種類や使役動詞・可能動詞の不使用を具体例を挙げて説明したことが、自己添削や他者添削の中でのチェックポイントとなり、修正されやすくなった為と考えられる。練習シートの他者添削の指摘内容を見ても「ひらがな・カタカナ漢字変換」や「表記の誤り」、「表現の誤り」等事前のチェックポイントを意識していることが伺える。約7割の学生が、練習シートや他の実習日誌で前回指摘された誤字・脱字と同じ字を間違えていないと回答していることから添削による修正の効果が推測される。表現の変換についての指摘から、以下の2点の特徴が考えられる。1つは「しゃべり」「寄っかかる」「イマイチ」「トントン」「食べれて」「輪っか」「やっぱり」等の『話し言葉』が多く、自分を中心とした表現、私的言語が多数見られる点である。上萬 (2018) ⁶⁾ が実習日誌の書き方手引きを作成し、「話し言葉と書き言葉」についての指導を行った結果、実習生が子どもの心情を推し量り、保育士の対応から学ぶ姿が的確に表現されるようになったと報告している。このことは、『話し言葉と書き言葉』の違いを認識することが自己中心の記述から他者が理解しやすい客観性のある記述へと変化する上で重要であることを示しており、学生の日誌に『話し言葉』が多用されるのは実習日誌が自己の保育内容や援助方法を省察するために客観性を必要とするものだということが十分理解できていないことが要因だと考えられる。『話し言葉』が減り、相手が理解しやすい『公共性のある言葉』へと変化していくことが日誌の記述練習の中でも求められている。練習シートにおける他者からの添削は『客観性』のある文章を書くための有効な方法の1つと考えられる。もう1つは、子どもの姿や保育者の援助の表現に「解釈→そのままにせず」「没収→預かり」「共有し→投げかけ」「促す→言葉を掛ける」「指示→伝える」等の『熟語』が多く見られる点である。指摘内容では、単なる『熟語』から具体的なイメージを持てる表現への変換が求められている。より子どもの姿や行動が分かりやすくイメージしやすいような表現にする為には、日頃からの人の行動に対する観察力が必要であるが、観察が十分にできていない場合に、曖昧な『熟語』表現で記述してしまうことがあると考えられる。観察力は、短期間で習得できるものではない為、実習前の練習シートの日常生活の行動観察だけでは不十分とも考えられる。この点については、さらに観察の方法をいくつか用意して演習していくことも必要と考えられる。

2. 表記に関わる自己修正方法の習得

約8割の学生が、実習日誌を提出する前に表記の誤りの見直しをしていることから、継続的な練習シートによる見直しが定着し、実習先でも活かされたことが推察される。見直しの頻度は、〈その都度〉及び〈1日分書き終わってから〉のいずれも約7割で大きな差はなく、各人のスタイルによって見直しがされていると考えられる。見直しに使った自己修正の方法では、インターネットの検索機能が最も多く、スマートフォン（以下スマホ）を保持することが一般的になっている現在ではそのネット機能を利用することが最も手軽な検索方法になっていることが要因と考えられる。実習日誌の自己評価に「スマホのキーボード変換だけでは同じ音の違う漢字が出てくることがあるので、検索まで行い意味を調べた上で使うことがよい」という記述が挙げられていたことから単なるひらがな漢字変換機能だけではなく意味検索まで使っていくことが必要と考えられる。講義の中で紹介した『スマホ+word音声文字変換』を実習先で利用した学生が3名いたことや声に出して読む『音声化』を利用した学生も3名いたことから、視覚的認知より聴覚的認知が得意な学生にとっては音声を利用した自己修正方法も有効であることが推察される。電子辞書の利用も3名に見られたが、紙の辞書を使う学生はいなかったことから、多数の学生にとって自己修正ツールとしてスマホの活用が有効であることが示唆された。

以上のことから、表記の誤りのチェックポイントを説明した上で、継続的に練習シートを使って記録を書き、自己添削や他者からの添削による見直しの機会を設定することは、利用しやすいツールを使った自己修正方法を習得し、実習中に一人で日誌を書く際に活用できる手立てとなり、表記や表現の誤りを減らし正確な文章を書くことに有効であることが示唆された。日誌の書き方指導プログラムの内容として重要な点であると考えられる。

V 今後の課題

今回は、練習シートの記録と実習日誌の自己評価から表記や表現の誤りの自己修正方法の習得に焦点を当てて指導プログラムの予備的検討を行ったが、学生の自己評価である『読み手が理解できる正確な文章が書けるようになった』は主観的評価であり、本来は実習前後の記述内容を比較し、指導プログラムの効果測定を行うことが必要であろう。今後は、表記の誤りを修正することに加え、学生が自己肯定感を持ちながら『客観性』を備えた正確な文章が書けるようになる為の指導プログラムの検討が必要と考えられる。

引用文献

¹⁾ 厚生労働省編（2018）保育所保育指針解説．フレーベル館，52-53．

- 2) 吉江幸子 (2020) 保育実習日誌の書き方に関する考察 星槎道都大学研究紀要, 1, 109-1 14
- 3) 権藤真織 (2007) 保育実習における実習日誌の記述内容と実習成績との関連—学生自身による日誌の内容分析学習を通して—. 近畿大学豊岡短期大学論集, 4, 46.
- 4) 文部科学省 (2018) 通常学級にいる気になる子ども
- 5) 坂本真由美 (2017) 学生の実習日誌記述から考察する実習日誌指導の検討—附属幼稚園との連携を考えて—. 中村学園大学発達支援センター研究紀要, 8, 37-43
- 6) 上萬雅洋 (2018) 「保育学生のための実習日誌における『考察』の書き方の手引き」の作成について. 鳥取看護大学・鳥取短期大学研究紀要, 76, 75-80